

市場調査 重要性訴え

徳島市で セミナー 起業の問題点探る



大学教官らが大学発ベンチャーの起業の条件や問題点を語る「大学発アントレプロモーションセミナー」（徳島大学地域共同研究センターなど主催）が四日、徳島市内の徳大工業会館で開かれた。起業を目指す教官や学生ら約六十人が、専門家による座談会やパネル討論に耳を傾けた。

徳大の齋藤史郎前学長、事業部次長の長尾秀樹氏をコーディネーターに、小樽商科大学ビジネス創造センター副センター長の瀬戸眞氏、徳島ニュービジネス協議会事務局長の竹村文宏氏ら、ベンチャー企業の起業を支援する県内外の専門家四人が意見交換。

大学教官ら約60人が起業のあり方を探った大学発アントレプロモーションセミナー。徳大工業会館

日本政策投資銀行新規

「商品の評価するのはあくまで市場。技術が良ければ売れるはず」という考えは捨ててほしい」と、市場に関する徹底した情報収集の重要性を訴えた。

日本テクノロジーズベンチャーパートナーズ投資事業組合ゼネラルパートナーの村口和孝氏は「どんな大企業でも創業期は赤字。赤字を出すのは駄目」という俗説に惑わされず、未来への仮説をきちんと立てて投資するべきだ」と強調。大学発ベンチャーの成長戦略については「しっかりとしたノウハウ・技術を持って地元でまず成功させ、その技術を日本、世界に展開していくのが基本」と話した。

座談会に先立ち、瀬戸氏が「大学発ベンチャー企業のスタートアップのための条件」と題して講演。無料起業相談会もあった。

同セミナーは、徳島県内で大学発ベンチャーの起業を促すために、初めて開いた。